県PTA広報 とっとり

編集・発行／鳥取県 PTA 協議会
事務局 / 〒 680-0846 鳥取市扇町 21
県民ふれあい会館内
TEL0857-21-2285　FAX0857-21-0906
E-mail:tori-pta@gamma.ocn.ne.jp
http://www.tottori-pta.net/

子どもたちの未来へ
夢を紡ぎ心を育てる
単位ＰＴＡ活動の実践と絆で結ぶＰＴＡ

－鳥取県ＰＴＡ研究大会におけるアトラクション－
三朝町立東小学校児童による「行者太鼓」

●●• ＰＴＡ組織について •●●

皆さんは、ＰＴＡの組織をご存じでしょうか。
身近なところでは、各学校単位に組織されているものが思い浮かぶことと思います。これらの組織は基礎的な組織として単位ＰＴＡと呼んでおり、大部分の保護者の方はこの単位ＰＴＡの中で活動しています。さらに市町村・郡市単位の連合会組織があり、都道府県・政令市単位の県協議会 (連合会) で、それぞれの活動範囲の諸課題に対応した活動を行っています。さらに全国レベルの日本ＰＴＡ全国協議会を各都道府県の代表者で組織し、全国・ブロック別等で活動を行っています。(P6 に続く)

66 号のおもな内容

ＰＴＡ組織について…… 1
鳥取県ＰＴＡ研究大会報告…… 2
鳥取県ＰＴＡ協議会教育懇談会報告… 3 ・ 4
優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰…… 5
日Ｐ小・中ＰＴＡ広報紙コンクールの受賞　… 5
鳥取県ＰＴＡ協議会優秀広報紙集…… 5
トピックス：鳥取市小・中合同人権教育研修会 5
母親委員会報告…… 6

鳥取県ＰＴＡ研究大会を開催

鳥取県ＰＴＡ研究大会が、さる平成 23 年 12 月 10 日（土）三朝町総合文化ホールにて、県内各地から約 260 名のＰＴＡ会員が参加し、盛大に開催されました。

三朝町立東小学校児童による「行者太鼓」のアトラクションでスタートした大会は、小原　工　氏による「スポーツを通して養う食と心身の成長」と題した講演へと続きました。その後、鳥取県教育委員会から各種事業について説明をいただいたのち、県教委委託事業「基本的生活習慣の定着等による学力向上促進事業」について、事業実施２年目の６ＰＴＡから実施報告をしていただきました。

学力向上には、基本的な生活習慣が少なからず影響していることが報告され、委託事業を受託することは荷が重いと思っていたが、「やってよかった。引き続きやっていきたい。」との感想も発表されていました。

（山岡英之）

講演会

講演会では、米子市観光協会・プロトライアスリート／コーチの小原　工　氏より、「スポーツを通して養う食と心身の成長」という演題でご講演いただきました。

同氏は、中学・高校・大学を通じて水球をされ、同じ大学の先輩にトライアスロン選手がおられたのがきっかけで、トライアスロンを始められました。その後、幾多の困難と挫折を経験されながらもその都度立ち上がり、夢であり、そして目標になった 2000 年シドニーオリンピックに日本代表選手として出場を果たし、日本人トップ（21 位）でゴール。テレビで応援していた我々に感動を与えてくれた偉大な選手です。

子どもの頃は徹底した好き嫌いがあった小原氏は大学で栄養学を学ばれ、その「食」はスポーツ選手として、プロアスリートとしての「食」に大きく変化されたそうです。

そんな同氏のお話は、非常に重みと説得力があり、そのようなご自身の経験から多くのメッセージを伺うことができました。

☆失敗の数だけ成長し強くなれること
☆元気・勇気・本気で取り組めば夢と目標に近づけること
☆感謝することの大切さ
☆人には平等に可能性があること
などを熱く語られました。

（内田雅之）

委託事業報告

平成 23 年度鳥取県ＰＴＡ研究大会において、鳥取県から委託された『基本的生活習慣の定着等による学力向上促進事業』の実施報告があり、以下のＰＴＡの方々による発表がありました。

智頭町立智頭小学校ＰＴＡ
倉吉市立明倫小学校ＰＴＡ
倉吉市立上灘小学校ＰＴＡ
米子市立住吉小学校ＰＴＡ
日野町立黒坂小学校ＰＴＡ
八頭町立船岡中学校ＰＴＡ

この事業は、子どもの基礎学力の向上に必要とされている「基本的生活習慣の定着」に係る主体的・具体的な取り組みや啓発活動を実施することにより、子どもの基礎学力向上を促進することを目標としています。

いずれのＰＴＡも、子どもたちの健やかな成長のためには、基本的な生活習慣の定着は欠かせないと捉え、様々な活動報告をいただきました。『早寝・早起き・朝ご飯』をもじった『早寝・早起き・基礎英語』など工夫を凝らした取組みの報告は、今後のＰＴＡ活動に参考になることが多くあったと思います。

おわりに、県教育委員会の高橋家庭・地域教育課長にご講評をいただき報告会としました。

（藪根彰人）

鳥取県ＰＴＡ協議会教育懇談会を開催

全体懇談会は、小グループ討議の後、県教育委員会事務局の方々をお招きして盛大に開催されました。

鳥取県ＰＴＡ協議会の横山会長、鳥取県教育委員会の石田教育次長のあいさつを皮切りに、前段に行われたグループ討議の概要、県教委からの要望や連絡事項、最後には意見交換を行うなど、各参加者が積極的に意見を述べられました。

石田教育次長からは、「三つ子の魂百まで」「かわいい子には旅をさせろ」という言葉を引用され、教育の原点は家庭からが重要であり、子どもに対して真剣に向きあったり、語りかけたり、抱きしめたり、ふれあったりすることが大切であると同時に、ときにはあえて子どもに負荷をかけるなどして、いかに子どもに親の気持ちを伝えるかが大事であるというような、大変共感するお言葉をいただきました。

またグループ討議の内容は、①学校再編成及び 35 人学級、②家庭教育・ＰＴＡの活性化、③子どもの人権、④健康と体力づくりの４項目について、各グループとも、この共通課題に対して活発な議論並びに積極的な発表でありました。

最後の意見交換では、私たちＰＴＡ協議会のメンバーによる積極的な意見や、県教委の山本小中学校課長からの熱い心のこもった意見など、本当に参加者全員が耳を傾けていたことが強烈に印象に残りました。

私たちＰＴＡは、これからも県教委と一緒になって「子どもたちのために何ができるのか」という共通目標に対して活動していかなければなりません。その活動の一つである今回の全体懇談会は、大変有意義でありました。　（米原隆生）

小学校Ａグループ分科会

「学校再編及び 35 人学級」について、グループで討議したところ次のような意見がでました。

- ◉再編については、良い所もあれば悪い所もある。いかに皆が補ってやるか、地域・保護者・学校・関わる人みんなで、それぞれ「コレが出来る」という事をしてもらって、子どもを育てて行かないといけない。
- ◉不審者が多い今、地域の協力は大きな力。子どもの事を第一に、統合が「遠いからダメ」ではなく、皆で協力し合あう事が大事。
- ◉誰かがではなく、関わり方は違っても得意な分野で、それぞれが支えて子どもを育てていく、温めていく事が大事。
- ◉メリット、デメリットはあるが、メリットの大きい方をとって再編する。
- ◉各市、郡がそれぞれの特性を生かして進める。30 人学級、35 人学級がゴールではなく、その後が大事。（いいフィールドができたという状態）
- ◉先生も子どもに目が届きやすくなるのだから、昔の考え方ではなく、それに合った新しい考えを探って欲しい。
- ◉少人数学級になると、級外の先生をそちらに取られてしまうのでは…と不安に思う。

同じ課題でも、大規模・小規模学校では問題点も違うと思いますが、子ども達のためにより良くと思う気持ちは同じではないかと思います。

ただ、再編成や少人数学級にするだけではなく、子どもの視点を考えて再編して欲しい。中身がどうであるかが大事だと感じました。　（橋本香織）

私たちＡグループは、**「学校再編及び 35 人学級」**について討議しました。

35 人学級となれば、子どもたちに目が届きやすい、先生とのコミュニケーションがとりやすいなど賛成意見も多い中、小規模校では先生の数が減ってしまうのでは、との不安の声も出ました。

昨今の少子化で子どもの数も減り、学校が統合されているのも事実で、その統合についても学校や保護者の負担、地域との連携、学校を変わらなければならない子どもたちのストレスなど、問題点は様々です。

しかし、問題点ばかりを重視するのではなく、学校・地域・保護者がそれぞれの特性を生かし、そこにより多くの人が関わり、欠点を補っていくことが重要ではないでしょうか。

学校再編、35 人学級は、どちらにしてもそこがゴールではなく、そこからがスタートであり、子どもたちにとってより良い環境が整備されていくことを、保護者として見守っていきたいと感じました。　（芦田記代美）

小学校Ｂグループ分科会

小学校Ｂグループでは、**「子どもの人権」**について、岸田人権教育課長の説明をしていただき、保護者からの事例紹介により討議が始まりました。

先生に対する人権教育は学校単位で１年計画をたて実施されていますが、実際には、決め付け型の授業をされる先生もあり、親として戸惑っている事例が紹介されました。

子どもを良い方向に導くためには、学校と家庭での対応が変わらないよう、先生の指導力を向上するとともに、保護者の研修も必要となります。親として、携帯・インターネットの使用制限をしたり、しつけと虐待の境目の問題など、子どもの気持ちを考えた対応の仕方を学習していく必要があります。それには、「とっとり子育て親育ちプログラム」を活用してみてはという提案がなされました。

次に**「健康と体力づくり」**について、北村健康教育室長より説明がありました。

小学生のスポーツ活動について課題を認識しており、望ましい在り方について啓発に努めておられるが、現状と照らし合わせた再検討を予定されています。

保護者からはスポ少での指導者との関係に苦慮している事例もあるが、子どもが将来にわたってスポーツや健康に親しむ足がかりとなるよう、人間関係作りも含めた指導が望まれています。また、低学年においては、外反母趾などのトラブルとならないマジックテープ式の上履きの採用を学校と保護者で話し合っていく提案がなされました。

（研修委員長　小椋義彦）

中学校Ａグループ分科会

中学校Ａグループでは、**「家庭教育・PTAの活性化」**について討議を行いました。

ＰＴＡ行事への参加率を高めるためには、との意見交換の中で、ＰＴＡ・地域行事に参加は当然であった世代の祖父母たちを見て育った家庭（親）の多い地域は、参加率が高い、との意見がありました。次の世代のことも考えると、ＰＴＡ行事に参加している姿を子どもに見せることも必要なのだと感じました。

子どもも親も一緒に楽しめる参加型の催しは、参加率も高くなります。参加率を高めるためには、「魅力ある催しを企画できるか」に尽きますが、その催しも、年度始めの４月５月に開催するのが良い。ＰＴＡ行事を通じて保護者同士が親しくなり、「次もまた一緒に行こう」と言い合える環境づくりをすることが大切、との意見がでました。その手助けとして、県家庭地域教育課は、保護者同士のつながりを深め、仲間づくりのために、[とっとり子育て親育ちプログラム] の進行役（ファシリテーター）を派遣してくださいます。ＰＴＡ行事活性化のために、ぜひとも取り入れてみたいと思いました。

（中嶌千賀子）

中学校Ｂグループ分科会

中学校Ｂグループの討議内容は、**「健康と体力づくり」**についてでした。県教委から３人来ていただき、中Ｐ連の役員さんが、日頃の思いを熱く語られました。それに対し、丁寧に回答、説明をされ、あっという間に時間が経過しました。

話の内容の一つに、小・中学校の子どもの基礎体力の低下、これは、就学時までに身につけておかないといけないものが、ついていないのではと言う意見もでていました。

遊びの中で育まれる基礎体力は、小・中学校になって運動能力の発達につながるのでは・・・体力がつけば健康な体もつくることができるのではと・・・。

二つ目に各中学校の生徒の生徒数の減少に伴って、たくさんあった部活動が次々廃部になったり、学力向上のためのハードスケジュールや、登下校の危険性を考え部活時間の短縮などで、昔に比べ子どもたちの体力が低下しているのかもしれないなどでていました。

私たち大人が、限られた時間の中で頑張っている子どもや指導者さんに、万全な配慮や心からの支援をすることで少しでもよい環境ができるのではないかという意見がでていました。（川口玉世）

優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰及び日本ＰＴＡ全国協議会会長表彰（団体）を２ＰＴＡが同時受賞

このたび、米子市立和田小学校ＰＴＡおよび鳥取市立南中学校ＰＴＡ（保護者と先生の会）が、長年のＰＴＡ活動の功績が認められ、平成 23 年度優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰及び社団法人日本ＰＴＡ全国協議会会長表彰（団体）を同時に受賞されました。

その表彰式が、平成 23 年 11 月 22 日に東京都千代田区紀尾井町にあるホテルニューオータニで行われ、両ＰＴＡ会長が出席されました。

この表彰式では、全国から文部科学大臣表彰 135 団体、日Ｐ会長表彰（団体）121 団体、日Ｐ会長表彰（個人）239 名に対し賞状の贈呈と小・中学校ＰＴＡ広報紙コンクール表彰も併せて行われました。

（横山隆雄）

日本 PTA 全国協議会小・中 PTA 広報紙コンクールの受賞について

日本ＰＴＡ全国協議会が主催しているＰＴＡ広報紙コンクールにおいて下記のＰＴＡの広報紙が受賞されました。（横山隆雄）

会長賞
北条中学校ＰＴＡ広報紙
「北条中ＰＴＡ会報」

佳　作
東伯中学校ＰＴＡ広報紙
「東伯中ＰＴＡだより」

鳥取県版『優秀広報紙集』の刊行！

今年度から、県ＰＴＡ協議会では県下小中学校の優秀広報紙を一冊の本にまとめた、初めての鳥取県版『**優秀広報紙集**』を発刊することとなりました。

平成 22 年度に作成された広報紙を対象に審査した平成 22 年度県ＰＴＡ協議会広報紙コンクールにおいて、出品点数 101 点（小学校 68 点、中学校 33 点）の中から、見事に県教育長賞を受賞された『なんだかんだプレス』（船岡小学校）や『北条中ＰＴＡ会報』（北条中学校）などをはじめ、各賞を受賞した広報紙より、掲載を許可していただいた 21 校（小学校 13 校、中学校８校）の優秀作品を一挙掲載しています。

各校に１冊配布しますので是非、各単位ＰＴＡで有効活用していただき、広報活動を通じてＰＴＡ活動活性化の一助となれば幸いです。

（藪根彰人）

トピックス

鳥取市小・中学校ＰＴＡ連合会合同人権教育研修会
「人権文化ゆたかな　まちづくりに向けて」
～阪神・淡路大震災が教えたもの～

平成 24 年 1 月 28 日国府町中央公民館多目的ホールにて、約 300 人のＰＴＡ会員を集め、人権教育研修会が開催されました。この研修会は鳥取市のＰＴＡ会員を対象に人権問題について意識を高めようと毎年開催されています。

今年の研修会では、上記の演目で、兵庫県より全国隣保館連絡協議会の常任顧問兼事務局長である中尾由喜雄氏を招き講演を聴きました。中尾氏は、自らが経験した阪神・淡路大震災の避難所（隣保館）での出来事を通して、人間の持つ本当の優しさや強さについて熱く語っていただきました。

地震直後から避難所となった中尾氏が勤めていた隣保館には、同和地区内外の住民や聴覚障がい者７人を合わせて約 400 名が避難し数ヶ月にわたって生活をともにしました。震災という非日常の中、日頃私たちが合言葉にしている人権の尊重がそこでどう生かされたのか。一人一人がかけがえのない人間として実感するために何ができるのか。中尾氏の迫力に満ちた語り口調で熱くわれわれに問いかけられました。あらためて、人と人とが支えあいながら生きてゆく大切さを教えられました。

今は、東日本大震災の一日も早い復興を願い、キャラバン隊を通じて 17 年前の恩返しということで精力的な活動をされ被災者を勇気づけているそうです。

人とつながること、それは人権を大切にすること。そのものです。

（藪根彰人）

平成 24 年度より県PTA協議会母親委員会は廃止となります

県Ｐ母親委員会が、男女共同参画の観点から「母親」のみの組織と名称が残っていることを疑問視する声があり、委員会の活動内容も含め、廃止？存続？など２年にわたり検討を重ね、ようやく結論を出すことができました。その結果、今まで先輩方が培われてきた県Ｐ母親委員会は廃止する方向となりました。

ただ、単位ＰＴＡの活動は女性の存在なくしてありえないことは、ＰＴＡ役員をされている多くの男性も承知されていることだと思います。しかし、郡市Ｐ・県Ｐにはその思いや意見は今のところ、残念ながら充分に届いているとは思えません。このことを踏まえ、来年度からは、東中西部それぞれから女性代表一人を県Ｐ理事会のメンバーとして選出し、女性目線の意見をより反映させるように組織改正をすることにしました。

家庭・仕事・地域・ＰＴＡと忙しい毎日を送られていることと思いますが、まだまだ皆さまのお力をお借りしなければなりません。どうかよろしくお願いします。

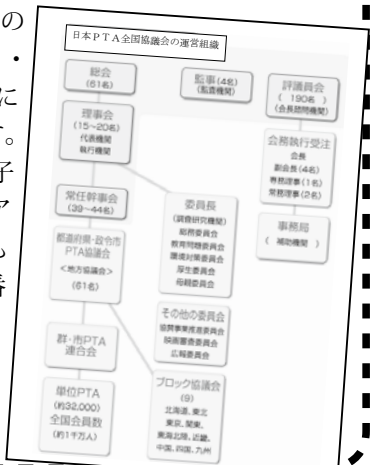
このように、県Ｐ母親委員会はなくなりますが、現在活動されている単Ｐ・郡市Ｐの母親委員会におかれましては、どうか子どもたちの健やかな成長や身近な仲間との活動の継続などをそれぞれの段階で検討していただき、存続・廃止の判断をしていただきますよう切に期待します。

（県Ｐ母親委員長　山本和代）

ＰＴＡ組織について （P1 より続く）

全国協議会は、昭和 27 年に「日本父母と先生の会全国協議会」として発足し、昭和 32 年に「日本ＰＴＡ全国協議会」に改称され、昭和 60 年の社団法人化をへて、平成 20 年には 60 周年を迎えたところであります。

全国協議会では、全国及びブロックＰＴＡ研究大会の開催、「たのしい子育て全国キャンペーン」の展開、広報紙「日本ＰＴＡ」の刊行、「子どもとメディアに対する意識調査」、「教育に関する保護者の意識調査」などの調査活動、「ＰＴＡ実践実例集」の刊行、日中友好「少年少女の翼」の実施、コンビニにおける有害図書の区分陳列の要請活動、ケータイ・インターネット等による弊害の解消活動、優良ＰＴＡ・功労者及び全国小中学校ＰＴＡ広報紙コンクールの表彰、国会や文部科学省等の官公庁に対する要望・陳情・請願等の諸活動、東日本大震災への対応などの諸活動を行っています。



全国協議会の活動は様々ありますが、よくマスコミに取り上げられるものとしては、「子どもに見せたくない番組」ベスト５というものがあります。これは「子どもとメディアに対する意識調査」から引用されており、この意識調査は「子どもに見せたい番組」も調査しており、どちらかを選択して回答するようになっており、多くの方が見せたい番組の方を選択されて回答しているのですが、あまり取り上げられることはありません。

全国協議会をはじめ、都道府県レベルの協議会等の活動は、各単位ＰＴＡに所属する会員の皆さまの支援があってこその活動でありますので、今後ともよろしくお願いします。

（横山隆雄）

編集後記

23 年度の事業も殆ど終わり、来年度の活動の準備をする時期になりました。私の子どもはミニバスケット部に入っているのですが、６年生の引退後は、既に来年度の体制で活動しています。最初の長女の入部から、現在は三女が所属しており、６年間の体制の入れ替わりと、チームカラーの変更をみてきました。入部している児童の特性に沿ったチーム作りや、バスケ以外のイベントも毎年特色のある内容で、よりよい活動に繋げていっています。私の子どもは長女がガードポジションで次女がセンターと、姉妹でも特性が違いポジションも違いました。ＰＴＡ活動も同様で、児童数は少なくなりますが、今年度の活動からより良い活動にするため、来年度の体制へ繋げる内容を、現在の役員で協議していきます。私事ですが保育園に通園している、四女の小学校卒業まであと８年、合併等の問題もありますが、ミニバスケットとＰＴＡ活動に可能な限り、協力していこうと思います。

（上田政彦）

65 号の編集後記中に誤記がありましたのでお詫び申し上げると共に訂正させていただきます。　（正）上田政彦　　（誤）内田雅之

広報委員会

委員長	藪根彰人
副委員長	米原隆生
委員	横山隆雄
〃	山本和代
〃	山岡英之
〃	内田雅之
〃	上田政彦
〃	青木一憲
〃	橋本香織
〃	中嶌千賀子
〃	川口玉世
〃	芦田記代美
〃	車井育子

4/1 より県Ｐ協ホームページリニューアル！

今後は、ホットな情報をタイムリーに発信します。ご期待ください。
■ＨＰアドレス■　http://www.tottori-pta.net/